

大学での課題解決型科目の導入と位置づけ

—河合塾「大学のアクティブラーニング調査」での結果を交えて—

野吾 教行

学校法人河合塾

教育イノベーション本部 教育研究部

河合塾の大学教育力調査プロジェクトでは、偏差値に加えて新たな大学選びの基準を開発すべく、2008年度より「大学の教育力調査」に取り組んでおります。この取り組みの中で、2010年度以来、「大学のアクティブラーニング調査」を毎年実施してきました。

本講演は、これらの調査から見出された仮説、具体的な事例に基づいたものであり、高等教育の中で、課題解決型科目をいかに位置付けて導入していけばよいのかという議論を深めるために、2つの提言をします。1つ目の提言は、カリキュラムデザインを踏まえて課題解決型科目を導入するということです。弊塾のプロジェクトでは、カリキュラムデザインとは、教育目標、アセスメント、カリキュラム設計の3者の関係性のデザインであるにとらえており、その文脈から考えた課題解決型科目のあり方を提言します。2つ目の提言は、カリキュラム設計に関するものであり、各年次への課題解決型科目の配置のあり方とそれらの他科目との関連付けについての提言です。

これらの提言の含意するところを、調査結果や事例を交えてお話しし、後段の各大学での、具体的かつ先進的な取り組みの紹介につなげることができればと考えております。

講演者略歴

2010年度より河合塾教育研究部の大学教育力調査プロジェクトのメンバーとして、「大学のアクティブラーニング調査」に従事。アクティブラーニングの導入事例を様々な大学の現場で実際に見聞してきた。これらの成果を、河合塾FDセミナーや河合塾編著の書籍『アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか』『「深い学び」につながるアクティブラーニング』『学びの質を保証するアクティブラーニング』『大学のアクティブラーニング —導入からカリキュラムマネジメントへ—』（いずれも東信堂）や、多数の大学でのFD講演などを通して紹介してきた。